

たんぽぽ学級

1) たんぽぽ学級の概要

「たんぽぽ学級」は重度重複障害を有する児童生徒の特別指導学級です。たんぽぽ学級の児童生徒は、自立活動を主とした学習を行っています。また、たんぽぽ学級での学習だけでなく、所属している各部の学習にも参加しています。

平成17年度から、看護師が常駐しています。たんぽぽ学級児童生徒にとって、今までより、さらに安全で安心できる学習環境が整いつつあります。

たんぽぽ学級の児童生徒たちは、とても個性豊かです。それぞれがその個性を發揮しながら、元気に明るく学校生活を送っています。

2) 学習の様子

①たんぽぽタイム

一定期間、めあてに向かって学習をします。たんぽぽ学級児童生徒の楽しそうな表情をたくさん見ることができる学習の時間です。

「はるをさがそう」「こいのぼり運動会をしよう」「しゅくはくがくしゅうに行こう!」「感触・水遊び」「光ゆれあそびをしよう」「とんぼまつりだよ。たんぽぽ村広場で楽しもう」「クリスマス会をしよう」「冬のあそびを楽しもう」等、季節や行事、興味・関心に合わせた単元を組んで学習をしています。

②課題別学習

一人一人の学習のめあてや内容を、児童生徒の実態に合わせて、保護者の方と担任と相談して行います。座位・立位・歩行等の自立活動の指導、歌あそびや手あそびなどを通してのコミュニケーションの学習、教科学習（パソコンの活用）等です。

訪問部

1) 訪問教育について

訪問教育は、障害のため通学して教育を受けることが困難な児童・生徒を対象に、教員が家庭・病院・施設等に出向いて行う教育のことです。

2) 訪問教育部の概要

- ①小学部・中学部・高等部で訪問教育を行っています。
- ②週3回を目標に訪問しています。1回の訪問で約120分の教育活動をしています。
- ③児童生徒の障害や疾病、環境等を理解し、保護者と連携を緊密にしつつ教育に当たります。また、医療面については、専門家のアドバイスを受け、授業に生かし取り組んでいます。
- ④児童生徒一人一人の興味や関心、障害の状況等に応じて個々の教育目標を設定し、教育内容を考えていきます。
- ⑤一人一人の実態に応じ、スクーリング（登校）を設定します。スクーリング登校時には、集団活動を経験していく中で、集団（社会）への適応を促していきます。家庭での生活では、体験できない集団学習や学校ならではの様々な活動の経験を広げる場になっています。児童生徒の実態や体調に合わせ、無理のない活動を用意しています。
- ⑥2005年度から、学校に看護師が常駐するようになりました。スクーリング登校時の「安全と安心と安楽」の状況がととも改善しました。スクーリングの回数も多くなっています。（2007年度からは、看護師が2名になりました。）
- ⑦2005年度から、「過年度生の受け入れ」も始まりました。今まで様々な事情があり義務教育段階で学校教育が終了していた方々に、学校教育の門戸が開かれました。

3) 訪問授業の内容例

①健康チェック

顔色、口唇色、呼吸状態、端鳴、痰、発作、体温、心拍数、血中飽和酸素濃度などを確認します。また、ご家族や看護師、医師に体調の様子を聞いてから授業を始めます。

②朝の会（はじめの会）

握手をしたり、抱っこしたりしながら、あいさつの声かけや名前を呼んで、返事、表情の変化、身体の動きを引き出し、見守るようにします。

③学習

- ・身体の変形や拘縮の予防、進行防止を図っています。よりリラックスできるように音楽や歌に合わせて行います。
- ・マッサージを行い身体の緊張をほぐしたり、皮膚を鍛えたりします。そのとき、自分の体を自分自身で感じ取ることができるように、声かけをしながらマッサージをします。また、家の中や病室での生活が中心なので、可能な時には屋外に出て外気を吸ったり、日光に当たったりして、皮膚を通していろいろな刺激を感じ取れるようにします。
- ・歌声、CD等でいろいろな歌や音楽を聞いたり、キーボード、鈴、タンバリン、鉄琴、ギター等のいろいろな楽器の音を出して演奏したりして楽しみます。
- ・季節に合った絵本、パネルシアター等を、抱っこしてもらったり、いすに座ったりしながら楽しむようにします。
- ・絵の具を手や足にぬって手形・足型の作品を作ったり、粘土、小麦粉、お湯、スライムなどのいろいろな素材のものに触れ、触覚の発達を促したりします。
- ・触れるとスイッチが入り、音が出たり光ったりするおもちゃを用意し、音や光を楽しみます。

④まとめ（終わりの会）

今日の活動の様子を連絡帳に記入し、次回の予定を確認します。保護者の方と懇談をすることもあります。「さよならの歌」「終わりのあいさつ」をして授業が終わります。